
被災地の現状



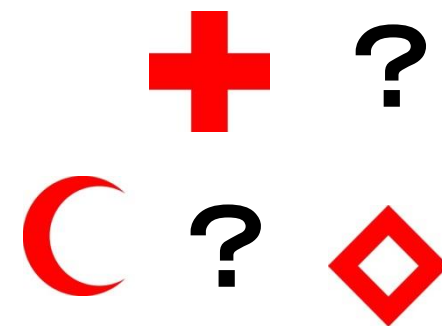
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



日本赤十字社について



- 「赤十字」の名前はみんな知っている
「日本赤十字社」の認知度 98.9%
- 「赤十字」が何なのか、何をしているかは、
あまり良く知られていない…
 - イメージ ⇒ 献血、病院、人道…
 - 国の機関？ 外郭団体？



赤十字とは？

- 赤十字は、世界中で「人道支援活動」を行う民間の団体です。
- 赤十字は、みなさまからお寄せいただく資金で活動しています。
- 赤十字は、「人道」を世界中で達成したいという想いで活動をしています。

人道による「赤十字活動」

- いのちを守る。
- 健康を守る。
- 苦痛を軽減し、予防する。
- 人間の尊厳を守る。

—これを世界中で達成したいという想い—

日本赤十字社の活動

■災害救護活動

災害現場での
医療救護や救援物資の配布。



■赤十字講習

病気やけがの予防と
とっさの時の手当など、
健康で安全な生活。



■医療事業

地域医療への貢献。
災害などに備えて医師、
看護師を訓練。



■看護師等の養成

救護や医療にあたる
看護師などを養成。



■青少年赤十字

学校を通じて
いのちと健康を大切にする
意識や思いやりの心を育成。



赤十字活動は、みなさまからいただいた
活動資金で支えられています。

■国際活動

世界中の紛争や
災害の被災者に支援の手を。



■血液事業

あなたからの
温かい贈りもの、献血。



■赤十字ボランティア

赤十字を支え合う
ボランティア。助け合う心。



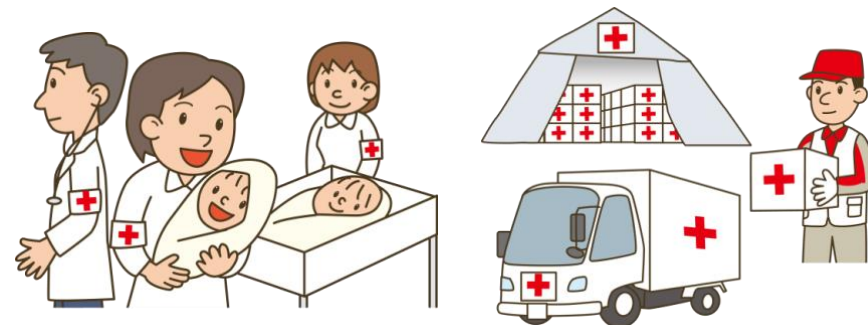
■社会福祉

こどもやお年寄り、
障害のある人のための
社会福祉施設の運営。



国内災害救護活動

- 医療救護
- 救援物資の備蓄と配分
- 災害時の血液製剤の供給
- 義援金の受付と配分
- その他災害救護に必要な業務



**発災後、人々のいのちを守り、
苦痛を軽減することに貢献しています**

ミッションステートメント

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

日本赤十字社の使命

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの基本原則

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

わたしたちの決意

災害発生後の状況



地震(熊本地震)



地震(熊本地震)



津波（東日本大震災）



©岩手県宮古市

津波（東日本大震災）



津波(東日本大震災)



風水害（平成30年7月豪雨）



風水害(平成30年7月豪雨)



災害発生に伴う影響



災害発生に伴う影響（土砂災害）



災害発生に伴う影響（火災）



災害発生に伴う影響（モノの落下）



(財)消防科学総合センター
<http://www.isad.or.jp/>

災害発生に伴う影響（家具転倒）



災害発生に伴う影響 (ライフラインの停止)



災害発生に伴う影響 (コンビニなどの休業)



災害発生に伴う影響 (ガソリン・水・食料不足)



災害発生に伴う影響（帰宅困難者）



災害発生後の生活

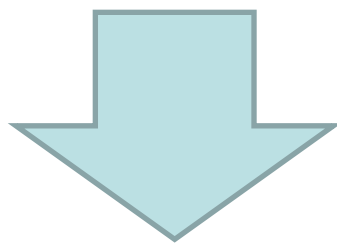


災害発生から1週間位まで

- いのちを救う活動が重要
- 安否確認が一段落
- 被害の全体像が段々と分かってくる
- 水道・電気・ガス(ライフライン)が停止
- 安全な場所での一時避難(避難所、親戚宅等)
- 被災者同士による協力

これまでの日常とは全く異なる生活

- 住家・家財に大きな被害
- 水道・電気・ガス(ライフライン)が停止
- 不自由な避難生活



皆で協力し、助け合うことが大切

生活基盤の復旧には時間がかかる

		電気	水道	ガス
東日本大震災	50%	1日	6日	23日
	90%	4日	23日	34日
阪神・淡路大震災	50%	1日	7日	34日
	90%	1日	36日	61日

避難所での生活



避難所とは？

一時避難所・・・災害の危険を避けるために一時的に避難する場所(集合、待機場所にも)

近隣の公園、広場など

広域避難場所・・・一時避難所の避難が難しくなった場合に避難する場所

大きな公園、大学など

収容避難所・・・自宅で生活が難しい被災者が宿泊、食事などの生活をする場所

学校、公民館など



避難所での生活（阪神淡路大震災）



提供：神戸市

避難所での生活（東日本大震災）



避難所での生活（熊本地震）



過酷な避難所生活

- 体育館はそもそも災害避難用や宿泊用の施設ではない
- 1人当たりの面積が狭い
- 多くの人々が避難しているため、常に騒音や混雑感があり落ち着かない
- ベッドや布団がない又は不足している
- エアコンなどの空調設備が整っていない
- お風呂やシャワーなどの設備がない
- 温かい料理が提供されない

「避難所生活の心得」

- 時間を守る
- 正確な情報を手に入れる
- プライバシーを確保する
- 休養、睡眠がとれるよう工夫する
- 女性への配慮をする
- 犯罪に巻き込まれないよう注意する
- 男女別の責任者を決める
- 仕事が生きがいになる

避難所生活「注意したい5項目」

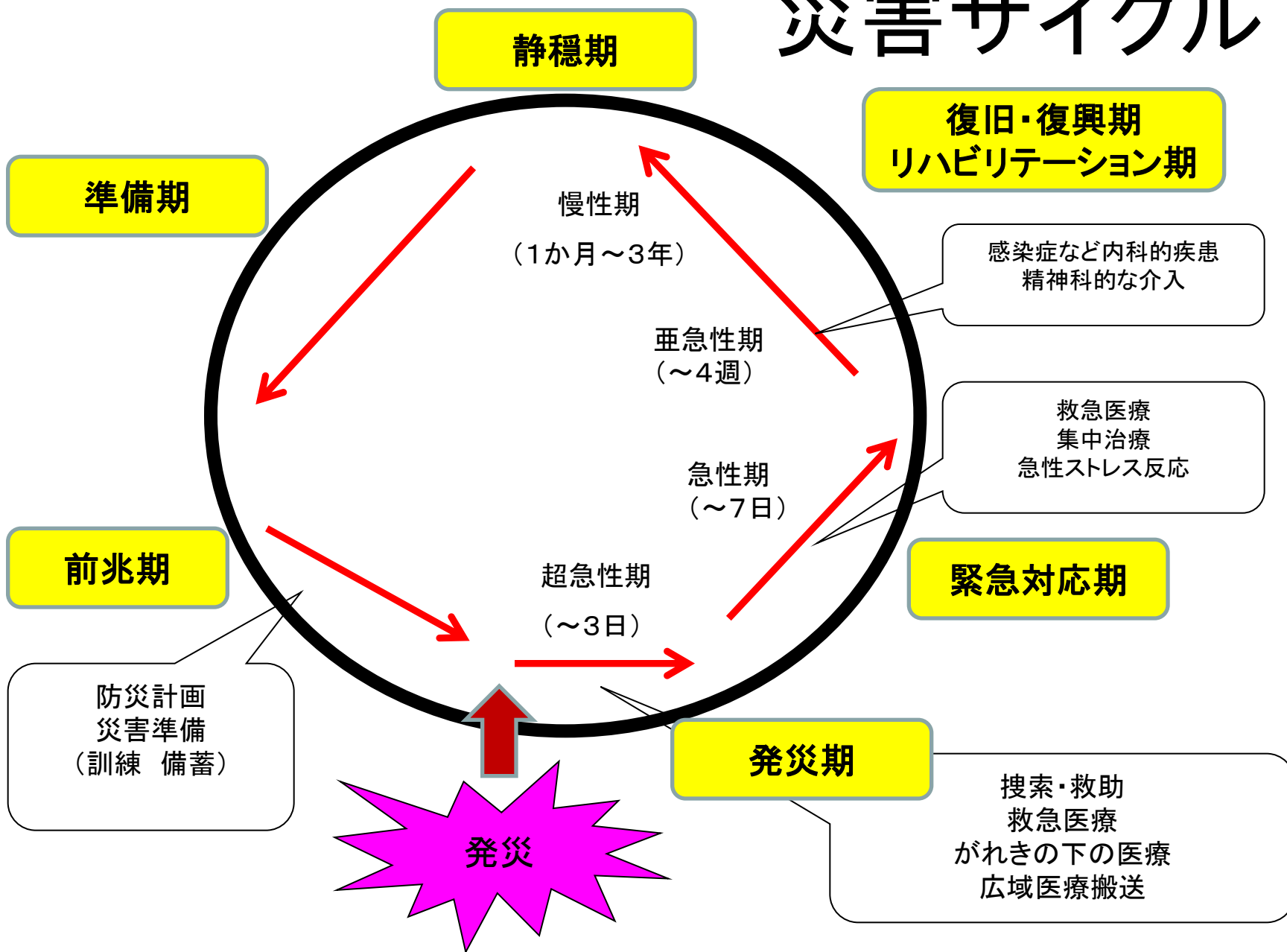
- 生活不活発病、エコノミークラス症候群に注意
- 風邪やインフルエンザに注意
- 食中毒に注意
- 熱中症や脱水症状に注意
- ストレスに注意



災害時の医療



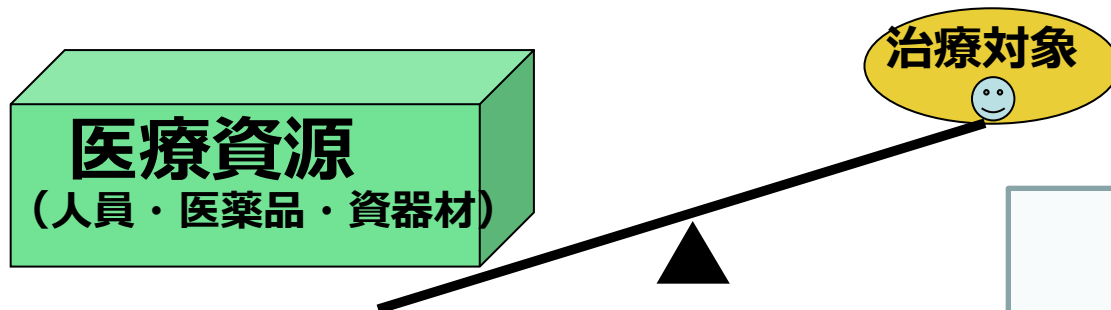
災害サイクル



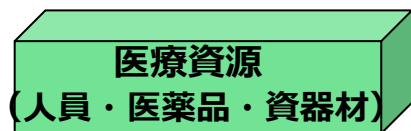
救急医療と災害医療

救急医療

十分な医療資源で全ての人を救う



災害医療



災害医療

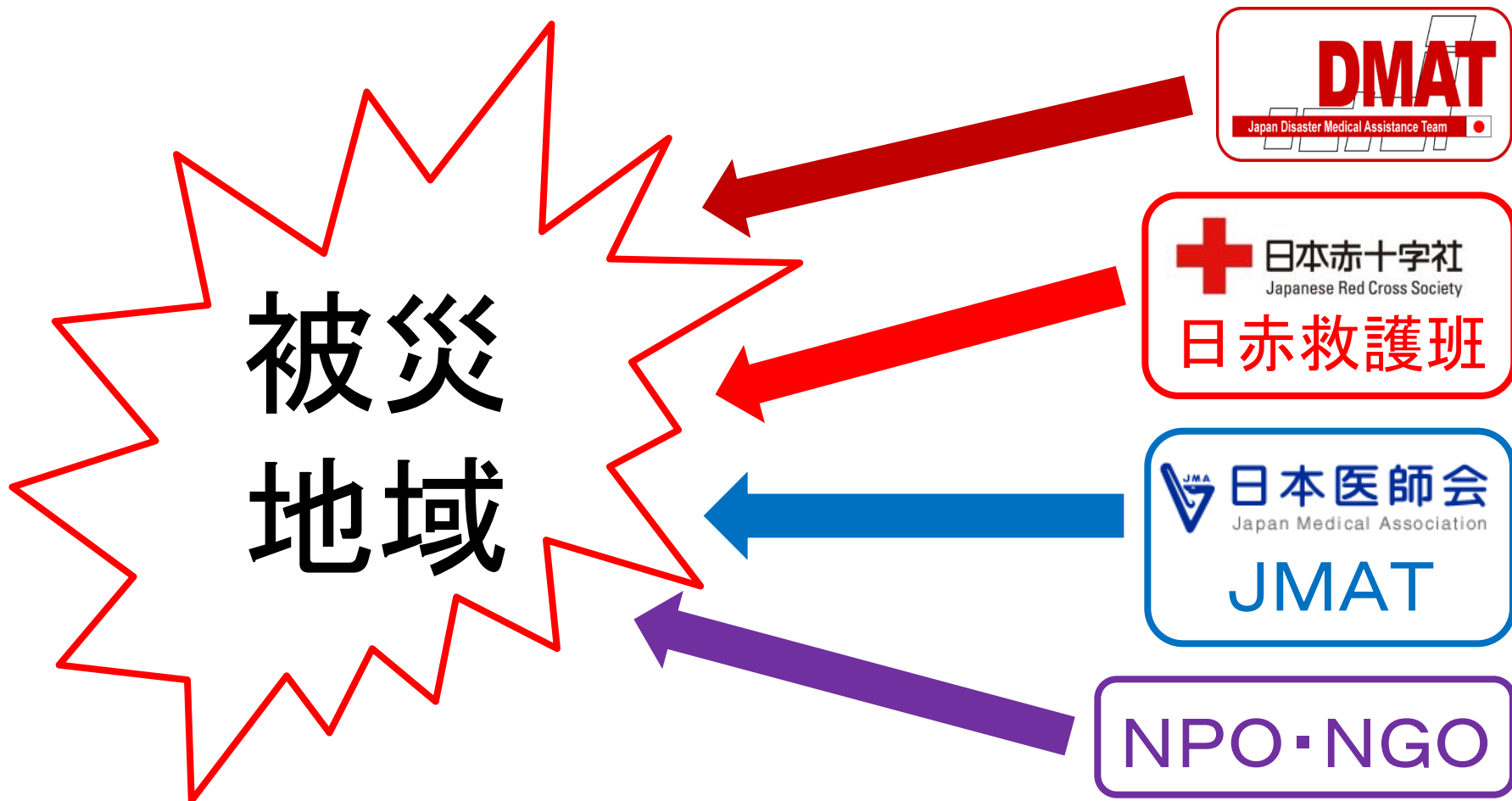
災害で多数の傷病者が発生
限られた医療資源で
できるだけ多くの人を助ける

救急医療 ≠ 災害医療

トリアージはそのための手段のひとつ

参考: 日本DMAT隊員養成テキスト

災害時の医療体制



被災地の医療を支えるため、様々な医療チームが被災地に派遣される

赤十字が行う医療救護活動

- 救護所を開設して応急医療
- 助産
- 遺体の処理
(検案、洗浄、縫合、消毒など)
- 避難所などの巡回診療

避難所前にdERU(仮設救護所)を展開



dERU内で被災者を診療



避難所の巡回診療



まとめ



災害時におけるリーダーの必要性



災害は

- ・ 発生直後から状況が様々に変化する
- ・ 状況の変化に応じ、ニーズが変わる
- ・ 時間の経過と共に、公的機関・市民団体等の支援活動が始まり、様々な調整が必要になる

**リーダーに協力する、
あるいはリーダーになる**

救出・救命の時期（10時間フェーズ）

＜この時期のリーダー像＞



- 専ら近隣住民の間で、行動的で声が大きく、人に指示して動かすことが得意なタイプの人々が、個人的資質を生かして自然とリーダーの役を担う
- 平時のつながりを基礎に、自ら率先して、あるいは周囲の人の協力を得ながら
- 自らの居住場所付近で、近隣住民の安否確認、生き埋め者救出、二次災害防止や要配慮者対応など、緊急性の高いニーズに対応

避難所生活の時期(100時間フェーズ)

＜この時期のリーダー像＞



- 普段から地域住民や地域内組織とのつながりを有し、世話好きで面倒見がよく、顔が広い人が、組織内での立場や指名に基づきリーダーの役を担う
- リーダーをサポートする組織の人々と相談しながら地域内や外部からもたらされる資源を活用して
- 避難所の管理運営や高齢の自宅避難者に対する食料や水の提供などの活動を行う

応急手当の必要性



特に大規模災害時には、
救急車は来ないかもしれない
病院もけが人でいっぱい！

現場にいる人で対応せざるを得ない。

災害時には応急手当の内容をすべて知って
いる人が「1人」いるより、
『1だけ』でも知っている人が100人いる方が、
多くの人を救うことができるかもしれない。

